

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol. 9 2014 新年号



発行：猛禽類保護センター（愛称：鳥海イヌワシみらい館）

〒999-8207 山形県酒田市草津字湯ノ台 7-1-1 TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683
http://www.raptor-c.com E-Mail:moukin@raptor-c.com



「最上川河口鳥獣保護区にて オオタカ」 撮影：アクティングレンジャー 長船裕紀

庄内平野を潤す最上川は、日本三大急流にも数えられ、山形県の主要産業である農業には欠かせない存在です。河口は北前船の港としても栄えた酒田港に注ぎ、上方文化を取り込みながら山形県民の生活と経済・産業を支えてきました。

最上川河口の南北には 35km にわたる砂浜である庄内海岸が続き、庄内砂丘とも呼ばれています。昔、この地には、広葉樹が生い茂る森が広がっていましたが、年貢として塩を生産したり、薪を作ったりするなどしてその森は消失してしまいました。その後、海岸の森を失った庄内地方には強い風が吹き込み、砂浜の砂が風砂となって庄内平野を吹き荒らしました。荒廃した庄内平野を復活させるため江戸時代の中期、酒田市の豪商、本間光丘をはじめとする地域の人々によって海岸線にそって「クロマツ」が砂防林として植えられました。それから 300 年、再び森を得た庄内砂丘では多くの農産物が栽培されるまでになり、それらは現在、山形県を代表する特産品となっています。

このような最上川河口と庄内海岸の一部は、平成 17 年から環境大臣が指定する「国指定鳥獣保護区」となって環境省鳥海南麓自然保護官事務所の管理のもと鳥獣と生息環境の保護が図られています。先人から受け継いだクロマツ林と、最上川河口がはぐくんできた環境には、現在ハクチョウをはじめとする渡り鳥にとって重要な生息地となっている他、オオタカやコアジサシ、小鳥類など全国的にも貴重な鳥獣の生息が確認されています。（文・本間憲一）



～バードウォッチングへの誘い～ 第9回 がんばれニッポン！トリニック



いよいよ始まります！ソチ冬季オリンピック。日本選手団の応援も兼ねまして、猛禽類たちに競技をさせたらどの鳥が金メダルかを想像してみました。特性を知ればバードウォッチングの際の見分けにも役立つはず。むしろ、ちょっと見方が変わって面白いかも？（絵：本間憲一 監修：アクティグレングジャ—長船裕紀）



↑「ハヤブサ」×ボブスレー

猛禽類最速を誇るハヤブサ。急降下時のスピードは最高時速300 kmにも達します。ボブスレーは氷上のF1とも呼ばれるスポーツですが、時速160 km程度とハヤブサの約半分です。さて、世界最速の男ウサイン・ボルト選手は100m 9秒58ですが、ハヤブサは時速300 kmで飛行した場合、約1.2秒でゴールできることとなります（凄）。

↓「ハチクマ」×スキージャンプ

渡りをする猛禽類ハチクマは、日本を出発して赤道直下のインドネシアまでわたります。余裕のK点越えですね。テレマークを忘れずに！（できないか？）



「チュウヒ」×体操↑

チュウヒは背の高いヨシ原に生息している猛禽類です。すらりと長い脚を持っていて、背の高いヨシに引っかけられないように、美しいV字姿勢で降り立ちます。その姿はまさに体操の着地シーンのようです。

「オジロワシVSオオワシ」×レスリング↓
当センターのある山形県では見かけませんが、北海道など流氷の上で行われる氷上のレスリング。エサのスケトウダラを巡ってオオワシ、オジロワシが激しくぶつかり合います！ワシタカ界の伊調選手、吉田選手かも？



イヌワシってどんなワシ？⑧「兄弟間闘争」

ここ猛禽類保護センターには「鳥海イヌワシみらい館」という愛称がついていますが、イヌワシってなに？と思う人や図鑑でしかイヌワシを見たことがない人もいられるかもしれません。そこでシリーズ8回目は「兄弟間闘争（兄弟殺し）」について紹介します。

子供の頃、弟とのおやつを取り合いで3歳もの差があると、最終的な実力行使で私が多く取ることができました。「お前の物は俺の物。俺の物は俺の物。」と有名な方は言ったものです。それは違いますね（笑）。

さて、イヌワシには生まれたばかりのヒナの兄弟が争いをする習性があり、「兄弟間闘争」と呼ばれます。イヌワシは冬に平均して2個の卵を産むのですが、母イヌワシは同時に2個産卵するのではなく、1個目の卵を産んでから数日後に2個目の卵を産みます。この「数日後」というのがポイントで、産み落とされるのが早いほうが、当然に孵るのも早いわけです。よって第一ヒナが孵って数日後に第二ヒナが孵るのですが、その数日間の間に第一ヒナが大きく成長します。そんな体格差がある中ではじまる兄弟間闘争は、弱肉強食の自然界では容赦なく行われ、第一ヒナは、第二ヒナが頭を持ち上げると攻撃し、親から十分なエサをもらうことができなかつた第二ヒナはやがて衰弱して死んでしまうことが多いのです。北半球に広く生息するイヌワシで、兄弟間闘争はどこに生息するイヌワシにも起こるのですが、大陸に生息するイヌワシでは2羽とも巣立つことも多いのに対し、日本に生息するニホンイヌワシでは2羽巣立つ確率は1%とされています。採餌事情の厳しい日本の環境で、ニホンイヌワシが生き残りのために備えた究極の習性なのかもしれません。

「兄弟殺し」と聞くと物々しい響きに、残酷なイメージを持つ方もおられるかもしれませんが、哀しくもそうした習性で命をつないできたニホンイヌワシに同情せずにはられません。



イヌワシが見られる動物園 第8回「多摩動物公園」

「イヌワシを見てみたい！」けれども野生のイヌワシに出会うことはなかなかむずかしいものです。確実にイヌワシの姿を見てみたい人や、間近にイヌワシを見てみたい人は動物園に行ってみましょう。第8回目は、「東京都多摩動物公園」です。飼育展示課 中島亜美さんに伺いました。

Q. 多摩動物公園ではいつからイヌワシを飼育しているのですか。
「1958年に上野動物園より1羽来園し飼育したのが最初です。この個体は千葉県で保護されたものでした。」

Q. 現在飼育中のイヌワシについて教えてください。
「最年長は1977年に幼鳥で保護された『越後』36歳♂、最年少の2011年に大森山で繁殖した個体『楓』2歳♀など、♂14羽、♀5羽の合計19羽を飼育しています。」

Q. 多くのイヌワシを飼育されていますが、その中でも苦労していることは何ですか？
「イヌワシを一番多く飼育しているフライングケージでは、イヌワシを10羽前後、そのほかの猛禽を6羽、同時に飼育しています。個体の特徴をつかんだり、健康状態を把握したりするのに苦労しています。ペアを決める際の相性も見極めがなかなか難しいです。」

Q. 飼育員さんが思うイヌワシの魅力について教えてください。
「翼を広げ、ダイナミックに飛ぶ姿。迫力があります。」

Q. 多摩動物公園でのイヌワシ飼育の特徴は何ですか。
「イヌワシが飛び回ることのできる大きなフライングケージ、巣台にカメラが設置してあるなど繁殖用の環境が整っている繁殖ケージ3箇所、怪我や高齢個体を飼育する保護ケージ、というように、よりよく飼育していくために複数の施設でイヌワシを飼育しているのが特徴です。」



巨大なフライングケージでは10羽以上のイヌワシが悠々と舞うことも

Q. 今後イヌワシの飼育についての展望をお聞かせください。
「青梅・小町、越後・紫ペアという多くの子孫を残した偉大なペアが解消して以来、有力な繁殖ペアが出てきていません。次世代が適齢期を迎え、現在は新しいペアの形成を目指しています。たくさんいる個体の中からどの個体がペアになるのか！？今後の行方から目が離せません！」

Q. 来園者に一言お願いいたします。
「アリからゾウまで出会えるところ」をコンセプトに、2013年には開園55周年を迎え、アジア園・オーストラリア園・アフリカ園・昆虫園の4つのエリアからなる、緑豊かな動物園です。ライオンバスやコアラなど人気動物の他、大きな翼を広げて飛翔するイヌワシの様子をぜひご覧ください。動物たちが皆さまをお待ちいたしております。」

イヌワシ約10羽を同時に飼育するフライングケージは圧巻で、国内では最大のイヌワシ飼育展示設備を誇る動物園です。イヌワシ飼育の展望でも話していただきましたように、飼育されているイヌワシ達の恋の行方にも注目ですね！その他、広い園内を活かした無柵放養式の展示や、季節にあわせたイベントなど違った視点から動物園を楽しめる内容も魅力です。国内最大級の昆虫園もお勧めですよ。ああっ、私も多摩動物公園に遊びに行きたくなくなっちゃいました！

多摩動物公園
〒191-0042 東京都日野市程久保 7-1-1
Tel 042-591-1611
開園時間：9：30～17：00（入園は16：00まで）
入園料：一般（高校生以上）…600円
中学生…200円※都内の中学生は学生証提示で無料
65歳以上…300円
小学生以下 無料
年間パスポート 一般…2400円
65歳以上…1200円
その他団体割引があります。詳しくはホームページ等でご確認下さい。
休園日：年末年始、毎週水曜日



多摩都市モノレール
「多摩動物公園」駅より1分
京王動物園線
「多摩動物公園」駅より1分
中央自動車道「国立府中IC」より6km
園周辺に有料駐車場有
料金700円～1500円程度
障害者用駐車スペース3台有
（無料ですが予約は不可）

庄内自然見聞録



庄内平野防砂林の猛禽類の巣から採集したアカマダラハナムグリの幼虫(前篇)

アクティングレンジャー 長船裕紀

昨年(2023年)の7月22日に齋藤利孝氏(希少動植物調査会 緑の玉手箱)と行った猛禽類調査(ペリット採集が目的)で、猛禽類の巣が落巢(巣が架けられている場所から、崩れたり地面へ落下すること)しているのを確認しました。巣の大部分が地面に落下しており、樹上に巣材はほとんど残されていませんでした。架けられていた枝が折れたか、もともと不安定だったのか、あるいは枝の腐食や強風の影響かと考えられます。

私は、ペリットや骨などの残留物を探すために、木の枝を使って何か見つからないかと巣をほじくり返していたところ、枝の折り重なった箇所にコガネムシ科と思しき幼虫を2個体見つけました。過去の資料で、大型鳥類の巣からコガネムシ(甲虫)が見つまっているのを知っていたので、非常にテンションが上がり、きっと「アレだ!」と感じました。その名も「アカマダラハナムグリ」。近年各地で発見が相次ぎ、昆虫誌や鳥類誌などで報告されています。私は幼虫を持ち帰り、飼育することにしました。



落ちた巣を調査する齋藤利孝氏

アカマダラハナムグリに関する資料を集め、数少ない情報を頼りに飼育方法を模索しました。蛹化前に土繭(蛹室)をつくる点からして、カブトムシと同様の飼育方法で構わないと考え、ビンを使って腐葉土での飼育を行いました(図1)。幼虫は既に3齢(終齢)だったこともあり、飼育といっても一度ビンに幼虫を入れてしまえば、特に世話らしい世話は必要ありませんでした。ビンの常温管理を心がけ、暗室に保管しておくぐらいで、あとは来るべき時を待つのみでした。幸い、センターには暗室となる場所が沢山あり、寒暖差は少なく飼育の好条件がそろっていました。



(図1) ビンにて幼虫を飼育

私が次にビンのをぞいたのは7月末になってからのこと。なんと幼虫は土繭を作り(図2)、着々と成虫への道を歩んでいました。ピンセットで土繭をビンの中からつまみ上げ、ピンセットの先で土繭の外壁を少し割り、中をのぞいてみるとサナギになっているのが見えました。私はとても感動しながら、静かに土繭をビンの中に戻しました。あと一ヶ月程で成虫が見られるはずです。(残念なことに1個体は土繭内で蛹化前に死亡していました。)



(図2) ビン内部にできた土繭。長さ 28mm 強

夏季休暇明けの8月下旬頃、私はワクワクした気持ちを抑えきれないでいました。サナギを確認してから一ヶ月余り、間違いなくサナギから成虫になっていると思うと、心が躍るようでした。そして私は、先月と同様にピンセットで土繭をつまみ上げ、前回割れ目を入れた土繭の外壁の隙間から中をのぞき込みました。すると・・・

なんて見事に鮮やかで雅な山吹色でしょうか。ブチのあるまだら模様はまるでべっ甲のような美しさです(図3)。成虫との対面は実に感動的な時間でした。

文献等によると、アカマダラハナムグリの成虫は樹液に集まることが知られており(酒井・藤岡 2007)、これもカブトムシと同様に吸蜜性であることから、昆虫ゼリーでの飼育が可能とわかりました。さっそく、昆虫ゼリー(高タンパクタイプ)を与えてみたところ、口をゼリー表面に押しつけ採餌しているのが確認出来ました。

のちに庄内昆虫同好会の方から聞いたのですが、確か(庄内地域において)「我々が子供の頃、昆虫少年たちの何人かは樹液に集まったアカマダラハナムグリを採集した」とおっしゃっていました。

飼育しているとアカマダラハナムグリの生活(生態)が垣間見られ、「そうなんだ」と感じる事が多々ありました。あくまで飼育下でのことですが、比較的夜間にも活動にしていることが多いことや、採餌中以外のほとんどは地中に潜ってしまうことがわかり、昼行性でおがくずの中にもぐりあまり上に出てこない(岡田 1971)という報告とは若干異なることや同様の行動が観察できました。また、採餌していない地上での活動中にまれに飛翔行動を行い、容器内で飛翔行動を連続的に行うのが観察できました。したがって、野外では飛翔によって大きな移動を行い、発生地からの分散を可能としている事を示唆しています。12月現在も、私の自宅にて飼育中ですので、ご覧になりたい方は連絡いただければと思います。身近な生物の観察を通して、命の素晴らしさを感じてもらおうきっかけにしたいと思っています。なお、標本にすると(死亡後は)全体的に黒ずんでしまうようです。

(次回に続きます)

(引用文献)

岡田俊典(1971)長生きするアカマダラコガネ。インセクトarium, 8:197.

酒井香・藤岡昌介(2007)アカマダラハナムグリ。日本産コガネムシ上科図説第2巻食葉群1,(コガネムシ研究会監修):95, 昆虫文献六本脚.



(図3)ビン内部で羽化したばかりの成虫



カブトムシの要領で飼育中です。

庄内の鳥情報ミニ (酒田市在住の守屋さんから2つのお写真を提供していただきました。ありがとうございました)



2013/12月 チョウゲンボウ♀
小型のハヤブサのなかま。この時期にやってくるコチョウゲンボウとの見分けが難しい種です。
場所：酒田市安田
守屋様提供



2013/12月 コハクチョウ
田んぼの落ち穂をついばんでいます。今年は珍しく、1月8日現在のところ、積雪量はあまり多くない庄内地方。ハクチョウたちもエサが探しやすいのかもしれないね。
場所：酒田市安田
守屋様提供



2013/11/24 オオアカゲラ
見れるとうれしい鳥！数回にらめっこした後、飛んでいきました。
場所：酒田市平田地区
長船裕紀撮影



2013/12/9 イヌワシ
巣材運び！いよいよ繁殖シーズン突入です！成功を祈る！
場所：山形県
長船裕紀撮影

◆イベント情報コーナー◆

ワシタカ観察会「冬のワシ・タカ探し」

冬の庄内は渡り鳥の宝庫！

この時期ならではのワシ・タカ類に加え、ガン・カモ類、ハクチョウ類も観察します。

期 日：平成 26 年 2 月 23 日（日）

時 間： 9:00～14:00

集合場所：大山公園駐車場（鶴岡市）

観察場所：下池（ラムサール条約登録湿地）

募集人数：先着 15 名

対 象：どなたでも（小学生以下は保護者同伴が必須）

参加費：一人 200 円

講 師：宮川道雄氏（鳥獣保護区管理員）

持ち物：双眼鏡（貸可）昼食 服装：防寒着

お問合せ： 0234-64-4681

e-mail：moukin@raptor-c.com



出張展示「もうすぐバレンタインデー！イヌワシ恋物語」

バレンタインデーも近いですね。

そこで、ショッピングセンターイオン三川さんにて、イヌワシの恋愛にまつわる展示を開催します。

「ワシ・タカおみくじ」も用意していますのでお買い物もお立ち寄りの際は、ぜひ見に来てね！ワッシーくんも登場するよ！

期 日：平成 26 年 2 月 7 日（金）～9 日（日）

場 所：イオン三川 1 階 カレント前

時 間： 10:00～17:00

お問合せ： 0234-64-4681

e-mail：moukin@raptor-c.com



あしがき&施設情報



Illustrated by Masami Tsuno
©鳥海イヌワシみらい館

普及啓発担当

あけましておめでとうござ
います。さぁ今年もいそがし
くなるぞ！ってか～？(本)

事務局

ここは豪雪地帯！通勤
路でウサギやタヌキの
走りっぷりに笑みがこ
ほれます。(村)

アクティブレジャー

今年はお世話になり
ました。来年もよろ
しくお願い致しま
す！(?) (長)

環境省 鳥海南麓自然保護官

センターもすっかり雪に包まれました。地元の方でもあまり訪れたことのないという冬のセンター。一見の価値あり！です。鳥海の自然を特徴づける雪のすごさが分かります。(水)

◆鳥海イヌワシみらい館 1月～3月の開館情報

開館時間・・・9:00～16:30

お休み・・・1月、2月は火、土、日、祝が休館
3月は火曜日が休館

入館料・・・無料

ホームページアドレス・・・<http://www.raptor-c.com>
〒999-8207

山形県酒田市草津字湯ノ台 71-1

TEL 0234-64-4681



ブログ「鳥海イヌワシみらい館日記」もやっています。
<http://raptor2236.blog.fc2.com/>

チェックして下さいね！